

令和5年度

運 営 に 関 す る 計 画

大阪市立堀川小学校

令和5年4月

大阪市立堀川小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

現状と課題

本校はこれまでに、大阪市教育振興基本計画の2つの最重要目標のもと、14の取組を中心にして学校運営を進めてきた。目標設定に対し、学校全体で詳細な振り返りや評価を行い、児童や学校の実態に合わせた取組内容へと更新が図られ、常に目標を上回る成果を上げている。例を挙げると、「いろいろな場面であいさつをしている」児童は90%、「認知したいじめの解消率」は100%、「マーチングに取り組むことで得たものがある」と答えた6年生は98%、「学校生活のきまりやルールは大切だと思う」の肯定的回答は97%、また、令和3年度全国学力学習状況調査の平均正答率の対全国比は全国平均を1としたとき、国語1.18算数1.15であり、全国平均を大きく上回っている。

しかしながら、学校を取り巻く状況は近年大きく変化している。新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもたちの活動の制限、児童数の急増と校舎建設により過渡期にある校内環境、社会と学校のICT化と情報化社会の中での子どもの生活の変化、等により、本校児童にも多くの課題が浮上している。中でも、不登校・配慮を要する児童の急増、体を動かす時間と場所・機会の確保は最も大きな現在の課題である。さらに、令和4年度からの「大阪市教育振興基本計画」に挙げられる「総合的読解力育成」について、本校としての取り組みを形作っていくこともこれからの課題となる。

令和4年度からの4年間、大阪市の掲げる基本理念の実現をめざし、3つの最重要目標を抛りどころとしながら、堀川小学校としての取り組みを具現化し実践していくために、以下のように目標を定める。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合80%以上を4年間維持する。
- 年度末の校内調査における不登校児童の在籍比率を、各年度とも現在より低い水準で維持する。
- いろいろな場面でのあいさつができる子どもを育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている」の設問に対する肯定的回答の割合80%以上を維持する。
- 校内の美化を計画的に推進し美しい学校を作る。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が令和7年度末に85%以上になるようにする。
- 児童が、自分自身を振り返り、見通しを持ち意欲を持って成長できるよう取り組みを進める。中学校との連携を年間に4回以上行い不安なく進学できるようにする。また、キャリアパスポートを大人との関わりを持ちながら作成し確実に整理・蓄積する。
- インクルーシブ教育に関する研修を進める。医療的ケアや様々な障がいおよび児童の特性や傾向・合理的配慮についての理解を深め実践する。全教職員が参加する研修会を年間2回行い、その他の研修会についても年間計画に位置付ける。
- 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。児童・保護者への事後アンケート「マーチングに取り組むことで得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合80%以上を4年間維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成」について、つきたい力やそれにつながる学習方法への理解を深め、令和7年度までに本校での取り組みの形を確立する。また、読解力向上のため、文意を理解する力を体系的に養う授業モデルを実践する。

- あらゆる教科において、思考力判断力表現力を育成するため言葉による交流活動を進める。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合35%以上を4年間維持する。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を各年度とも80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を同一母集団において経年的に比較し前年度からの向上を図るほか、市平均を1としたとき1.1以上維持する。
- 体を動かす時間と場所・機会を確保し、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和7年度末に70%以上にする。
- 規則正しい生活を実践する指導を行い健康への意識を高める。それにより学校生活や学習に意欲をもって取り組み、友だちと関わり高め合う子どもを育てる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ICT を活用した学習と児童の実態把握の取り組みを定着させる。校内調査「日々の授業の中で学習者端末を活用して学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」の回答を90%以上にする。
また、実態把握のためのICT活用について持続可能な方法確立し定着させる。
- 勤務時間の軽減のため、ICT活用により保護者への連絡・調査回答等の業務を効率化し、学校行事の精選・取り組み方の見直しを図る。
- 校内研修計画について、研修の行い方および研修への参加体制について改善を行う。教職員アンケートで「校内研修が充実していたと思うか」の肯定的回答を各年度とも80%以上にする。
- 図書室および校内の読書環境を整える。図書室移設に伴い蔵書整備を計画的に行うほか、校内読書スペースの整備を4年間で完結させる。
- 分かりやすい情報発信・適切な情報の公開に努め、保護者アンケートの「学校は、家庭・地域との連携をとっているか」の肯定的回答を各年度とも70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。
- ② 令和5年度末校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
- ③ 『堀川スタンダード』や『学校安心ルール』を守って生活できるように取り組む。いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
- ④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。
- ⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。
- ⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。
- ⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで（子どもたちが）得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。
- ② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができる。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- ③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「外国語(英語)の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ④ 令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- ⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対しての肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ⑥ 規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標 (小・中学校)

- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回以上実施する。
- ・学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。
- ・協働学習支援ツールを用いた学習を実施する。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。
- ・ゆとりの日を週に1回設定する。

学校園の年度目標

- ① 児童アンケートで「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習をしている。」の項目について「ほぼ毎日」とこたえる児童の割合を90%以上にする。さらに、スマートスクール次世代学校支援事業で導入している心の天気、いじめアンケート等により児童の心の状態や日々の生活状況を可視化し、子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現する。
- ② ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日間以上行う。
- ③ 研修計画を立て、令和5年度末の教職員のアンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。
- ④ 図書室の移設にも対応しながら読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
- ⑤ 令和5年度末の学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立堀川小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・学校) ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。 ② 令和5年度末校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 ③ いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。 ④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。 ⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。校区内の新設「桜和高校」とも連携を図る。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。 ⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。 ⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで（子どもたちが）得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【１．安全・安心な教育環境の実現・いじめへの対応】 いじめアンケートを実施し、実態を正確に把握する。また、実施後の教育相談の充実を図るとともに、中学年以上は「心の天気」、「相談機能」を活用し、日々の児童の変容を見逃さないようにする。 指標 いじめアンケートを毎学期（年３回）実施する。アンケート実施結果「心の天気」、「相談機能」を見て、気になる児童には指導者は丁寧に聞き取りを行い、いじめの対応を１００％にする。	
取組内容②【１．安全・安心な教育環境の実現・不登校への対応】 職員全体で不登校傾向にある児童の共通理解を図る。また、生活指導部会やわかたけ担任会を中心に学校全体で児童の支援ができる体制を整える。気になる児童のことはいいとこみつけに詳細に記入しておき、情報の共有と引継ぎが確実に行われるようにする。 指標 定期的に生活指導部会をもち、児童の実態を共通理解する。令和５年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	
取組内容③【１．安全・安心な教育環境の実現・あいさつ】 福祉委員会を中心にあいさつ運動やポスターなどによる啓発を行い、児童があいさつの意味や重要性を感じられるようにする。また、来校者に対するあいさつの意識を高めていくために、あいさつ運動や生活目標に取り上げながら実施する。 指標 ・あいさつ運動を学期に１回行う。 ・生活目標に定期的に取り上げる。	
取組内容④【１．安全・安心な教育環境の実現・校内美化】 清掃道具の整備を行い、心を込めた清掃活動ができるようにすることで、美しい学校をつくる。 指標 ・月に１回「ピカピカデー」を設定し、呼びかけを行う。 ・環境委員会が月に一回各教室へ行き、清掃用具の点検を行う。また、教室やトイレの掃除の仕方についてのポスターや動画を作成し、心を込めた清掃活動に取り組めるよう周知する。 ・清掃活動の呼びかけを学期に１回程度、全校集会で全児童に周知することで、学校をきれいに使うことを意識し、校内を美しく保てるようにする。 ・児童の実態や人数にあった清掃用具を充実させる。	
取組内容⑤【２．豊かな心の育成・キャリア教育】 小中連絡、養護教諭の交流、わかたけ学級の連携、中学校教諭による授業等、積極的に情報を共有する機会を持つ。また、キャリアパスポートの実施により、児童が将来の目標を持てるようにする。 指標 ・年４回（一年生は３回）キャリアパスポートに取り組む。 ・将来の夢を意識できたり、目標をもつことの大切さに気付いたりできるようなコメントをする。	

取組内容⑥【２．豊かな心の育成・インクルーシブ教育】 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、発達障がい等の配慮を要する児童、いじめ・不登校などで不適応が心配される児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法について共有し、支援する。 指標 医療的ケアの研修会を年に３回行う。また、その他の発達障がい等、特別支援教育全般に関する研修会を年に２回設ける。 医療的ケアが必要な児童、配慮を要する児童、不登校傾向の児童等の状況を共通理解し、必要な支援をするために、特別支援学級担任が学年会に加わり、通常学級担任との連携を深める。	
取組内容⑦【２．豊かな心の育成・マーチング】 学校の特色の一つとして伝統あるマーチングに取り組み、校内・保護者・地域に披露する場を工夫する。 指標 ○テーマ・練習の進捗状況を校内・保護者・地域に対して学期に１回以上発信し、取り組みの目的を共有する。 ○活動内容・練習方法・披露する場所を工夫する。 ○６年生では、学年全体で取り組むことの意義を常に考えさせ、取り組みを通して、友だち同士が互いに支えあう共生の心と自己肯定感を育むようにする。 ○１～５年生では、マーチングの鑑賞を通して自身でも取り組んでみたいという気持ちにつなげ、伝統を受け継いでいく気持ちを醸成していく。 ○児童アンケートで１から５年生は、「マーチングを見て、自分もやってみたいと思う。」６年生は「マーチングに取り組んで、自分にとって得たものがあると思う。」の肯定的回答の割合を８０％以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立堀川小学校令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。 学校の年度目標 ① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。 ② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。 ③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・校内児童アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ④ 令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。 ⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対しての肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 ⑥ 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。病気予防に努めたという児童の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【４．誰一人取り残さない学力の向上・言語活動・理数教育の充実】 学力の向上に向けた言語活動の充実として、国語科「情報の扱い方」「説明・報告」領域から年間１単元を重点単元に設定して、言語能力（総合的読解力）を育成する。成果物を作成し、学んだことを表現する活動を行う。 理数教育の充実のため、ハンズオンを大切にしたい教育を推進する。算数科では実物を活用した学び、理科では実験・観察を取り入れた学びを充実させる。 指標 ・国語科「情報の扱い方」「説明・報告」領域から年間１単元を重点単元に設定する。 ・算数科では、実物を活用した学びを年間１単元設定する。 ・理科では、実験・観察を取り入れた学びを年間１単元設定する。	
取組内容②【４．誰一人取り残さない学力の向上・主体的・対話的で深い学び】 教科・領域の指導において、子どもにどのように力をつけさせたいのかを明確にした指導計画・実践を目指し、全学年で授業研究に取り組む。 指標 ・各教科の授業研究（一人一授業含む）において、“単元を通して、何を目的としてどのような内容を交流するか”という視点を持ち、授業を実施する。また、授業研究（授業）後に、参観者のコメントシートをやり取りすることで、授業力を高める。 ・前年度までの体育科の研究を活かし、授業前に、学年で、子どもたちの視点に基づいた授業展開を考えるようにする。また、年間指導計画をもとに、領域ごとの到達度目標を設定し、“（教師が）教えること”と“（子どもたちが）気づくこと”を明確にする。 ・児童アンケートにおける「話し合い活動」に対する肯定的な回答（児童）を昨年度よりも１ポイント増加させる。	
取組内容③【４．誰一人取り残さない学力の向上・英語教育の強化】 児童が英語活動に対して苦手意識を持たず、楽しく参加できるように工夫した授業づくりや活動に取り組む。 指標 外国語の授業づくりのための研修を行い、児童が授業の中で楽しみながら学べる環境を作る。	
取組内容④【４．誰一人取り残さない学力の向上・全市共通テストの実施と分析・活用】 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率を向上させるための取り組みを実施する。 指標 ・前年度の学力経年調査の結果を踏まえ、平均正答率が低かった単元を把握し、重点的に指導する。また、それらの単元を学校全体で共有することで、児童がつまづきがちなポイントを踏まえた系統的な指導に生かす。	
取組内容⑤【５．健やかな体の育成・体力・運動能力向上のための取組の推進】 本校児童の体力・運動能力に合った体育的な取り組みを通して、体を動かすことが好きな児童を育てる。 指標	

・運動委員会を中心に学期に1回程度、体育的な取り組みをする。 ・月に1回シナプソロジーの日を設定し、運動に親しむ機会をつくる。	
取組内容⑥【5. 健やかな体の育成・体力・健康教育・食育の推進】 主体的に健康的な生活習慣を身につける。	
指標 健康委員会の活動（テレビ集会・放送・ポスターなど）や保健指導、栄養指導、学級指導など様々な機会に「う・ま・く・き・た・え・て（うがい・マスク・空気の入れ替え・規則正しい生活・体力をつける・栄養バランスの良い食事・手洗い）」の合言葉を周知させ、習慣づくようにする。アンケートでの肯定的回答の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立堀川小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回以上実施する。 ・学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。 ・協働学習支援ツールを用いた学習を実施する。 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。 ・ゆとりの日を週に1回設定する。 学校の年度目標 ①令和5年度校内調査「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習をしている。」の項目について「ほぼ毎日」とこたえる児童の割合を90%以上にする。さらに、スマートスクール次世代学校支援事業で導入している心の天気、いじめアンケート等により児童の心の状態や日々の生活状況を可視化し、子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現する。 ②ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日間以上行う。 ③研修計画を立て、令和5年度末の教職員のアンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。 ④読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。 ⑤令和5年度末の学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【6.教育DXの推進・ICTを活用した教育の推進】 学習者用端末を活用して、スマートスクール次世代学校支援事業で導入されている心の天気やいじめアンケートで児童の心の状態や日々の状況を可視化し、児童の理解を深める。 指標 ・発達段階や学習場面等に合わせて、学習者用端末やデジタル教材を有効的に活用する。 ・ICT機器を活用したプレゼンテーションスキルの向上のために、各教科の中で学習者用端末等を使ったプレゼンテーションをする機会を設定する。 ・学習者用端末で、スマートスクール次世代学校支援事業で導入されている心の天気やいじめアンケートを児童の心の状態や日々の状況を可視化する。	

取組内容②【 7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり・働き方改革の推進】 教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境づくりに努める。 指標 「ゆとりの日」を定期的に設定し、設定した日には退勤時間を遵守する。ICT を活用して保護者へのアンケートや児童アンケートを行い、実務の効率化をはかる。	
取組内容③【 7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり・教員の資質向上・人事の確保】 実践的指導力の向上、知識・技能を習得するために積極的に研修に参加する。また、研修等に参加しやすい環境を整える。 指標 校内や個人で年間計画をたて、それに基づき研修に努める。	
取組内容④【 8. 生涯学習の支援・学校図書館の活性化】 図書室の整備をはじめ、学級文庫の充実、読書スペースの整備、市立図書館の団体利用などを進め、読書環境の整備に努める。 指標 読書環境の整備を定期的に点検する。 学級文庫の本を学期ごとに交換する。 読書ボランティアの活躍の場と交流の場を設定する。	
取組内容⑤【 9. 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進・地域学校協議活動の推進】 学校だよりやホームページを通して積極的に情報発信を行う。学年でも定期的に児童の様子をホームページに掲載する機会を持つ。また、登下校の見守り活動、読書活動支援、地域との交流行事など、学校・地域・家庭の連携による取り組みを推進していく。 指標 「わたしたちのほりかわ」を活用し、地域や学校について学ぶ機会を設定する。ホームページに月ごとの発信回数を決め、計画的に児童の様子を知らせる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	